

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年7月30日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究 Ⅲ》</p> <p>ア. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の充実について <p>イ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な日本語指導の方法について ・不登校経験者への支援について
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間学級には、外国籍の生徒や、日本国籍であっても外国語を母語とする生徒が多く在籍する。外国籍の生徒や日本語の習熟度が低い生徒に対し、より効果的な日本語指導の方法を研究することは、夜間学級にとって常に求められる課題である。また、多様な年齢層の生徒の健康管理や、特別支援教育及び不登校経験者の学び直しの課題解決について研究することも夜間学級の重要な課題である。指導力向上を目的とした研究を進めるとともに、生徒が充実した学校生活を送るための環境整備を推進することをねらいとする。
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会に招聘した講師の先生から、語彙数の年齢による増え方や、言葉は経験から習得できるということ等を指導いただき、特に語学の習得については焦らずスモールステップがとても重要であることを全教員で学んだ。また、日本語のより効果的な指導方法の一つとして、話し合い活動を取り入れた授業について研究し、教員各々の指導力の向上が見られた。さらに、全夜中研大会への参加や関西の先進校視察において、ユニバーサルデザインを取り入れた教室掲示や環境整備についての知識を得、夜間学級の各教室により多くの生徒作品を掲示するようになった。 ・既卒者の中でも特に不登校を経験した生徒への対応についての知識を高めるとともに、校内研修で当該生徒の情報交換及びよりよい対応について活発な議論を交わすことができた。また、校内研修でロールプレイを用いながら発達障害についての理解を深めることにより、精神的に不安定な状態の生徒を複雑な環境においても支援することができ、良好な登校状態及び学習に向かう姿勢を保つことができた。